

難病在宅医療-患者からの発信-プログラム

平成 20 年 3 月 9 日 (日)

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」6 階 交流ホール

9 : 00	開場 : 入場開始
9 : 30	開会 : コーディネーター挨拶 パネリストの紹介 ～患者からの発信～ALS 患者から 他 パネリスト 野原正平氏 : 静岡県難病連理事長 渡辺とみ子氏 : 看護師・ケアマネージャー (ALS 患者) 大澤真助氏 : 日本リウマチ友の会静岡支部長 (リウマチ患者) 紅林照代氏 : 全国パーキンソン病友の会静岡県支部事務局 (パーキンソン病患者) 質疑応答
11 : 45	終了 : 退場

ワークショップ 難病在宅医療 -患者からの発信-

このたび勇美記念財団との共催で執り行われたシンポジウム「難病在宅医療-患者からの発信-」は、これまでの医学会において例を見ない患者会が主体となったものでありました。医療とは誰のためにあるべきか、何のためにあるべきかを考える貴重な機会になったと思います。患者と医師等医療関係者が同じ壇上に上がり発言をし、同じフロアから議論できたのは非常に意義深いものになりました。200名余りの参加者の中には障害を抱えている方も多く見られたため、主催者として、会場にスロープを設置し、発表者の表情が見えるようにモニターを用いたり通常のシンポジウムと違う配慮をいたしました。

シンポジウムの中においては、難病の医学的課題のみならず、社会的課題も取り上げられ、そういった中で患者当事者が懸命に生きている姿が浮き彫りにされ、座長から今回のシンポジウムはパンドラの箱であったという感想が述べられました。パンドラの箱から最後に出てきたのは「希望」。私たちは在宅医療の通じ、「希望」を育てていく使命を担っていることを忘れてはならないことを、患者から学んだシンポジウムでした。

勇美記念財団と関係者の方々のご理解ご協力と今大会が盛会に終えることが出来たことに心から感謝申し上げます。

第10回日本在宅医学会大会
大会長 石垣泰則